

ご挨拶



『子どもの家』誕生 100 周年記念大会名誉委員長
日本モンテッソーリ教育総合研究所所長

鈴木 勲

現代は子どもを取り巻く環境が、世界的にみても悪化の一途を辿っています。誠に残念ではありますが、我が国においても子育て放棄やいじめなど、子どもが健全には育ちにくくなっている状況にあることは否めない事実です。そういう時代だからこそ、子どもの自発性を尊重し、生き生きとした子どもを育てるモンテッソーリ教育の現代的な意義がとりわけ重要視されなければなりません。

日本モンテッソーリ教育総合研究所では、モンテッソーリ教育『子どもの家』誕生 100 年を記念して、2007 年の一年間を通して様々なモンテッソーリ教育普及活動を実施いたします。その活動には講演会、モンテッソーリ教育現場の公開保育、海外視察旅行、現場からの実践報告および母親の目から見たモンテッソーリ教育報告・当研究所の普及活動の報告等目白押しです。100 年前に始まったモンテッソーリ教育の普遍性が現代の医学、心理学、教育学など多方面から証明されるようになってまいりました。講演会ではそのようなお話もうかがえることでしょう。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



『子どもの家』誕生 100 周年記念大会実行委員長
日本モンテッソーリ教育総合研究所教師養成センター主任実践講師

松浦 公紀

こんにちは。大会実行委員長の松浦公紀です。

1907 年 1 月 6 日はモンテッソーリ教育関係者にとっては記念すべき日です。この日にマリア・モンテッソーリはイタリアの首都ローマのサンロレンツォ地区、マルシ街 51 番地の集合住宅の一角でモンテッソーリ教育の実践を始めたからです。この施設の名称は『子どもの家』。ここでは主体は子どもであり、子どもは大人によって指図されたり、命令されたりして生活するのではなく、自らが行動の主人公として生き生きとした時間を過ごすようになっていきました。以来、このモンテッソーリ教育は世界の至る所で実践されるようになりました。現在では 0 歳から大学生まで幅広い年齢の生徒を対象とし、また、健常児のみならず発達遅滞児に対しても有効な方法として実践されています。

モンテッソーリ教育には真理があるからこそ一世紀という長い年月にわたって、特定の地域や特定の階層の子どもだけでなく、広く世界の隅々にまで普及しているのです。モンテッソーリ教育にある真理は子どもの正しい理解に起因しています。子どもがどんな存在であるのか。子どもはどのように育って行くのか。その子どもに対して大人はどんな役割を果たすべきなのかをモンテッソーリは明らかにしてくれたのです。

子どもはいつの時代でも掛値なくかわいい存在です。しかし、かわいいだけでは子どもの 100% の育ちは保障できません。そこには同時に子どもに対する知識が必要です。モンテッソーリは医師として培った客観的で論理的な視点から子どもを科学するメソッドを開発したのです。

モンテッソーリ教育の真髄は「子どもの自己発展の助成」です。子どもは育てられる受身の存在ではなく、自ら育っていこうとする能動的な存在であり、その能動性は環境と出合うことによって発揮されるのです。そして、その環境を準備してあげるのが大人の役割です。

モンテッソーリ教育関係者はもちろん、まだこの教育法を知らない皆様にもぜひお声をお掛けいただき、この教育の有効性と必要性を実感していただく 1 年になればと思っております。皆様と会場でお目に掛かることを楽しみにしております。